



## 三河のつぶやき

だんだん寒くなってきました。鴨川は暖かく、針葉樹が多いため紅葉がわかりませんが、先日山梨に帰ったところ、燃えるような紅葉と、雪をかぶった富士山が迎えてくれました。

11月20日から3日間、地域連携についての発表のために鹿児島へ向かう予定です。そのための資料を作りながら、これまで行ってきたことを振り返りました。今年で3年目になります。皆様と信頼関係を結ぶためにいろいろ行ってきましたが、たくさんの人に支えられているなど改めて感じました。その一方でコミュニケーションというものの難しさも感じています。



地域医療連携室  
室長 三河 貴裕

## マイブーム ハローCQ

再びアマチュア無線にのめり込んでいます。高校生の時に始めた趣味の無線でしたが10代後半からバイクに車と行動範囲が広がると無線の興味は薄れていきました。職場の仲間からまた無線始めたらと進められ40年のブランクがあるも無線局を開局しました。無線機は40年前に大切に箱に詰めていたのを開封、若干の手直しで電源が入り、アンテナは安価なワイヤーで済ませようと高所の作業で足をケガ、全治3ヶ月と診断され我ながら年を感じました。最後に無線機の調整でしたが40年前の操作は体が覚えていました。これには自分でビックリ自然にツマミに両手が動き、理屈抜きに何とか準備OK。そして記念すべき秋の青空にMy電波が発射されました。応答は早く北海道、九州と返事が返ってきました。この感動は昔と一緒に青春時代を思い出しました。ふと、そのとき「無線は定年してからが一番だよ」と老人に言われたことがやっと分かった気がします。鴨川の空からハローCQ。

CQ

## TOPICS

### 開催予定講演会のご案内

## TOPICS

#### 【がんの早期診断講演会】

日時:平成24年12月13日(木) 19:00~20:30

講師:栃木県保健衛生事業団 理事 森久保寛先生  
同 乳がん検診部長 阿部聡子先生

演題:がん早期診断に繋がる検診について  
~乳がん検診について~

- [1]マンモグラフィ検診の実際
- [2]超音波を併用した乳がん検診

#### 【がんのリハビリテーション講演会】

日時:平成24年12月14日(金) 18:00~19:00

講師:岡山大学病院 教授 尾崎敏文先生  
演題:骨転移に対する対応

#### 【がん看護講演会】

日時:平成25年2月22日(金) 18:00~19:30

講師:癌研有明病院 がん専門看護師  
花出正美先生

#### 【緩和ケア基礎研修会】\* 講義・ロールプレイ・ワークショップを含む研修です

日時:平成25年1月19日(土) 9:00~18:00(課程A) /20日(日) 9:00~17:00(課程B)

対象:医師・看護師・コメディカル

課程A:緩和ケア概論・がん性疼痛・オピオイドを開始するとき・呼吸困難・疼痛事例検討

課程B:消化器症状・精神症状・コミュニケーション・地域連携と医療療養の場の選択

会場は全て亀田総合病院Kタワー13階ホライゾンホールです

## 地域連携と臨床工学技士

### ME室 室長 高倉 照彦

みなさん、病院の中で働く「臨床工学技士」を知っていますか? なにやら名称から工学と言われると想像しにくいですが、臨床工学技士は地域連携医療でも頑張っています。今回はその臨床工学技士のお仕事についてお話しします。臨床工学技士の人たちは亀田総合病院を軸に安房地域医療センター、亀田ファミリークリニック、茂原機能クリニックの医療施設で医療機器の操作、保守点検をおこなっています。地域連携では主に透析治療に従事しています。ご存じのように透析治療には医師、看護師、臨床工学技士がチームとなり質の高い安全な治療をおこなっています。

医療現場では沢山の医療機器が活躍しています。そして透析治療装置も医療機器一つです。臨床工学技士は医療機器の専門家であり医療機器の操作と保守点検をお仕事としています。透析治療を受けるとき必ずベット横に置かれている透析装置があります。しかし、この装置は単独で動いているのではなく大きな透析液供給装置と連動しています。その装置は水道水から不純物を取り除き純水を精製し殺菌しています。その純水に透析原液と混合調剤し純度の高い透析液としてベット横の透析装置に透析液を供給しています。

透析治療には沢山の水が必要と言われます。一人あたり1回の治療で約120リットルの透析液が必要です。120リットルの透析液を作るのに水道水は約200リットル(ドラム管1本)が必要とします。ですから災害時に断水になると治療ができないことがわかりますね。これら患者様の目に触れる事のない透析液製造装置ですがすべて医療機器であり日々臨床工学技士が水道水の検査、純粋の水質の検査、透析液の管理など装置が安全に機能するように毎日の保守をおこなっています。

このように臨床工学技士は地域医療にも参加しています。また他のクリニックの技士達とも情報交換はおこなっているので南房総地域では安心して透析治療が受けられます。

## 恩師の教え



医療法人社団優心会  
生方内科クリニック  
院長 生方 英一先生

亀田総合病院および安房地域医療センターの皆様、いつも大変お世話になっております。南房総市富浦町(日本一の房州びわの産地)でクリニックを開院して16年になります。日本内科学会認定総合内科専門医と日本糖尿病学会認定糖尿病専門医を取得しているサブスペシャリストであると同時に、生まれ育ったこの故郷の町医者でもあります。今でも、守り続けている恩師(60歳の若さで世界)の教えが2つあります。1つが、「医者とは、目の前にした患者に対し、能力の限りを尽くし診療する者、それ以上でもそれ以下でもない」。自分の能力を過信せず、謙虚に診療せよ、ということの意味しています。開業医にとって、最も重要な仕事は、患者さんの状態が、診療所レベルの状態か、病院レベルの状態かを判断することだと思っています。病院レベルと判断した時は、遅滞なく病院に紹介すること、これが病診連携の基本と考えています。紹介すると患者を取られてしまうなどと申す開業医がありますが、いかがなものでしょうか。「邪念を捨てて、診療せよ」と思ってしまう。2つ目が、「良い臨床医は、良い研究者である」。たとえ、町医者であっても、いつまでも、研究心を忘れてはならないと思っています。日常診療の中には、多くの新知見があります。コツコツと論文にまとめ全国に発信していくのも開業医の仕事と考えています。開業してから、この田舎町から全国に向けて11編の論文を発信して参りました。これをご評価いただき平成24年11月3日に「千葉県医師会学術奨励賞」なるものをいただきました。これからも、恩師の教えを守り精進して参りたいと思っています。今後とも、宜しくお願いします。